

令和4年度第1回小牧市小中学校部活動検討委員会 会議録

1 開催日時	令和4年10月28日（金） 午後3時30分から
2 開催場所	小牧市役所 東庁舎 大会議室
3 出席	加藤委員長、鈴木副委員長、前原委員、水野委員、岩井委員、和田委員、小澤委員、合田委員、新實委員、服部委員、坂下委員、福岡委員
4 欠席	瀬尾委員
5 事務局	中川教育長、石川教育部長、伊藤教育部次長 《小牧市スポーツ協会》中谷ジュニア育成指導員、舟橋係長 《こまき市民文化財団》高木次長、跡見事業グループマネージャー 《文化・スポーツ課》藤田課長、丸藤係長、永田主事 《学校教育課》安部課長、采女管理指導主事、大久保指導主事、山下係長、安達主任
6 傍聴者	0人
7 議題	中学校部活動休日の地域移行について

<開会 午後3時30分>

1 開会

山下係長)

皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今から、「第1回小牧市小中学校部活動検討委員会」を開会いたします。

私は、司会を務めさせていただきます小牧市教育委員会学校教育課 係長の山下です。よろしくお願ひします。

【資料確認】

まず始めに、資料の確認をさせていただきます。

本日配布させていただきました資料は

- ・次第
- ・資料1 小牧市小中学校部活動検討委員会委員名簿
- ・資料2 小牧市小中学校部活動検討委員会設置要綱
- ・資料3 中学校部活動休日の地域移行について
- ・資料4 令和4年度中学校部活動の現状

- ・参考1 運動部活動の地域移行に関する検討会議提言の概要（スポーツ庁）
- ・参考2 文化部活動の地域移行に関する検討会議提言の概要（文化庁）
- ・座席表

でございます。不足などがございましたら、お申し出ください。

【傍聴について】

本委員会は、「小牧市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき開催するものでございます。そのため、個人が特定可能な議題などを除き、原則公開として開催させていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

委員)

異議なし。

山下係長)

本日、この会議の傍聴者は0人です。

(1) あいさつ

山下係長)

開会にあたりまして、中川教育長からご挨拶申し上げます。

中川教育長)

本日は、第1回小牧市小中学校部活動検討委員会を開催いたしましたところ、大変ご多用の中、本委員会へご出席を賜り、誠にありがとうございます。

ただ今から開催いたします部活動検討委員会は、小牧市立小中学校における部活動のあり方に関し、検討することを目的に、新たに設置した委員会であります。

皆様方もご存知かと存じますが、本年6月、スポーツ庁から運動部活動の地域移行に関する検討会議の提言があり、続いて8月には文化庁から文化部活動の地域移行に関する検討会議の提言がなされました。これらの提言を受け、現在、全国の各自治体で地域移行に関する協議が進められているところであります。

先日も、尾張部の都市教育長会議がございまして、その中で、県教委の方では地域移行をしていくためにその受け皿をどう考えていくのか、そして予算措置をどうするのかという点について、各教育長から県の担当部局に要望・意見等を出ささせていただいたところであります。この先、国や県の動向が分かればまいりましたら、早急に各市町に情報を下ろしていただくようお願いし、了承をいただきましたので、また皆様方にも順次、今後の情勢をお伝えしていければと思う次第です。

しかしながら、示された目標時期を踏まえると、2年ほどの期間で移行を進めていかななくてはならないという待たなしの状況でありまして、そういったことを考えますと本委員会の持つ重要さがいっそうお分かりいただけるかと存じます。

委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場に立った忌憚のないご意見をいただき、活発に議論を交わしていただければ幸いです。本市におきましても、全国的な傾向と同じく少子化が進んでいる状況であります。将来にわたって子どもたちが文化芸術・スポーツに継続して親しむ機会を確保できるよう、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

(2) 委員の紹介

山下係長)

それでは、次第に従い、進めてまいります。続きまして「委員紹介」であります。

委員の皆様におかれましては、ご多忙の中にもかかわらず、委員就任についてご快諾賜りまして、誠にありがとうございました。

本日は、初会合でありますので、委員の皆様から自己紹介をいただきたく存じます。お名前をお呼びしますので、一言ずつお願いいたします。

【委員紹介】

●名古屋経済大学教授 前原 宏一 様

名古屋経済大学で小学校教師を目指す学生の支援をされており、6年目となります。元は38年間、小牧市の小中学校で教員をしておりました。本日はよろしく願いいたします。

●小牧市PTA連絡協議会 水野 貴則 様

光ヶ丘中学校でPTA会長を務めております。私の子どもたちは部活動でプラスバンドをされており、毎日楽しく活動しています。会議では、しっかりとお話を聞いて勉強させていただき、また、私の出せる意見はしっかりと出していきたいと思っております。

●小牧市サッカー協会会長 岩井 昭典 様

小牧市サッカー協会の岩井です。20年程前にもこのような会議を行ったことがあり、私も参加しておりましたので、当時の会議の立ち上がりから、途中、中学校の部の頓挫にかけての経緯は多少、存じております。大したことはできませんが、当時の事例を踏まえたお話などはできるかと思えます。よろしく願いいたします。

●こまき市民文化財団職員 和田 学 様

文化指導員として文化協会の活動に携わっております。夏休みや学校派遣等、お世話になっております。よろしく願いいたします。

●味岡小学校長 加藤 和昭 様

味岡小学校長の加藤です。よろしく願いいたします。

●桃陵中学校長 鈴木 健司 様

桃陵中学校長の鈴木です。よろしく願いいたします。

●小牧南小学校教諭 小澤 賢子 様

小牧南小学校で教務主任を務めている小澤です。部活動ではバスケットボール部の顧問をしております。よろしく願いいたします。

●小牧中学校教諭 合田 亮介 様

小牧中学校の合田です。学校ではサッカー部の顧問をしております。私自身も中学生の頃はサッカー部で、本日いらっしゃる岩井委員や坂下委員にご指導いただいたこともあります。そのときの部活動の経験が今に生きていると思うことが多くあります。そのような自分自身の経験と、今の子どもたちの立場に立ったお話の両方ができればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

●小牧市スポーツ推進委員 新實 高久 様

小牧市スポーツ推進委員の新實です。会長を務めて4年目になります。スポーツ推進委員は、市民の皆さんを集めてニュースポーツを教えたり、スポーツ教室を開いたりといった活動をしております。活動の中で、小学校は比較的関わりがありますが、中学校とはあまり接点がありませんので、勉強させていただければと思います。

●学校地域コーディネーター 服部 伸子 様

私は平成17年度から学校地域コーディネーターをしており、現在は桃陵中学校に在籍しております。本日は、日頃よく見ている生徒たちの姿を思い描きながら、検討委員会に参加させていただきたいと思っております。

●小牧市中小体連事務局 坂下 憲司 様

中小体連小牧支所の事務局を担当しております応時中学校長の坂下です。部活動の中で児童生徒の成長をよく見ておりますし、一方で教員側の指導の大変さも感じております。本日は、勉強させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

山下係長)

ありがとうございました。

なお、小牧中学校教頭 瀬尾 宗利 様につきましては、本日、所用によりご欠席とのご連絡をいただいておりますので、ご報告させていただきます。

また、小牧市吹奏楽連盟 福岡 恭子 様におかれましては、所用によりご到着が遅れておりますので、ご到着次第、ご紹介いたします。

【事務局紹介】

続きまして、事務局職員の紹介をさせていただきます。

- ・教育委員会事務局 石川部長
- ・教育委員会事務局 伊藤次長
- ・文化・スポーツ課 藤田課長
- ・小牧市スポーツ協会 中谷ジュニア育成指導員
- ・こまき市民文化財団 高木次長
- ・小牧市スポーツ協会 舟橋係長
- ・こまき市民文化財団 跡見事業グループマネージャー
- ・文化・スポーツ課 丸藤係長
- ・文化・スポーツ課 永田主事
- ・学校教育課 安部課長
- ・学校教育課 采女管理指導主事
- ・学校教育課 大久保指導主事
- ・学校教育課 安達主任

以上、紹介とさせていただきます。

なお、教育長、教育部長につきましては、他の公務がございますので、ここで退席させていただきます。

(3) 会議の運営等について

山下係長)

会議の運営等について、担当からご説明いたします。

安達主任)

恐れ入りますが、資料1の「小牧市小中学校部活動検討委員会設置要綱」をご覧ください。

まずは、第1条 小牧市立小学校及び小牧市立中学校における部活動のあり方に関し必要な事項を検討するため、この委員会を設置するものでございます。

第3条、組織等でございますが、この委員会は、児童生徒の保護者、有識者、学校関係者などの15人以内の委員で組織し、任期は2年でございます。

第4条、この会には委員長、副委員長を置き、委員の互選で定めるとしておりますので、後ほど委員の皆様にご審議をお願いします。

第5条、会議は委員長により招集され、議事につきましては、委員長に取り回しをお願いします。

以下につきましては、後ほどご覧ください。よろしく願いいたします。

山下係長)

会議の運営等について、事務局からご説明申し上げましたが、ご質問があればお受けいたします。よろしいでしょうか。

(質問なし)

2 委員長、副委員長選出について

山下係長)

続きまして、委員長と副委員長の選任をお願いしたいと思います。

先ほどもご説明申し上げましたが、委員長、副委員長の選任については、委員の互選により定めるとされております。

恐れ入りますが、委員の皆様から、立候補、あるいはご推薦をいただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

坂下委員)

委員長は加藤委員に、副委員長は鈴木委員をお願いしたいと思います。

山下係長)

ただ今、坂下委員から、委員長には加藤委員、副委員長には鈴木委員という発言がありました。いかがでしょうか。

委員)

異議なし。

山下係長)

皆様のご異議もないということですので、委員長は加藤委員に、副委員長は鈴木委員にお願いしたいと思います。

それでは、加藤委員におかれましては、大変恐縮でございますが、委員長席へご移動をお願いいたします。

(席移動)

山下係長)

ただ今、福岡委員が到着されましたので、ご紹介させていただきます。

●小牧市吹奏楽連盟 福岡 恭子 様

小牧市吹奏楽連盟の福岡です。よろしくお願いいたします。

山下係長)

ありがとうございました。

それでは、改めまして、委員長にご就任いただきました加藤委員にご挨拶をいただきたいと存じます。加藤委員長よろしくお願いいたします。

委員長)

ただ今、委員長にご承認いただきました加藤です。よろしくお願いいたします。

先ほど、教育長のご挨拶にもありましたが、スポーツ庁、文化庁の方から中学校部活動の地域移行ということで提言がされております。小牧市におきましては、以前からそのような方向で進めている部分もありますので、子どもたちのスポーツ・文化活動の場をどのように確保していくかなど様々な課題を挙げていただき、この委員会で検討して今後の方向性を話し合っていけたらと思います。

委員の皆様の忌憚のないご意見をいただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

3 議題

中学校部活動休日の地域移行について

委員長)

それでは、議題の中学校部活動休日の地域移行について、事務局から説明を求めます。

大久保指導主事)

それでは、中学校部活動休日の地域移行について説明させていただきます。配布資料では、資料3となります。

まず、【部活動の意義】についてですが、教科学習とは異なる文化芸術やスポーツに親しむ機会を確保することで、多様な生徒が活躍できる場となっています。また、そうした活動を通して、人間形成や人間関係の構築、信頼感や一体感の醸成を図ることも期待されています。

しかし、課題も少なくはありません。少子化によって部活動を継続することが困難になっている現状や、教員の長時間労働の大きな要因になっている現状など、解決すべき

課題も山積しています。

これらの内容は、配布させていただきました「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」「文化部活動の地域移行に関する検討会議提言」にも記載されておりますので、ご確認ください。

続いて、【目指す姿】についてです。

先ほどの課題を解決しつつ、子どもたちが将来にわたり文化芸術やスポーツに継続して親しむことができる環境づくりを目指します。

そのために、地域と連携し、休日に教師が部活動の指導に携わる必要のない環境を構築することが必要となってきます。

令和7年度以降の休日部活動のイメージですが、それぞれの中学校区ごとに運営母体となる委員会を立ち上げ、そこに地域の指導者を派遣していただき、部活動を運営していく形（地域部活動）となります。基本的には生徒は自分の中学校区の部活動に参加することになりますが、希望する部活動がない場合には、他の地域の部活動に参加することも認めていくことを考えています。

しかしながら、これは令和7年度以降のイメージであり、来年度からこのように行えるわけではありません。来年度につきましては、まずはモデル校（単独校）2校において、それぞれその中学校区を軸とした活動を予定しております。

それでは、【改革の方向性】について説明いたします。

まずは、中学校の休日の部活動から段階的に地域移行していくことを基本とします。将来的には平日の部活動も移行していくことを考えていますが、現段階においては、まずは休日の部活動の移行を進めます。

それに伴い、先ほども説明いたしましたように、生徒のニーズに合った部活動となるよう、地域連携にも取り組んでいきます。

そして、地域部活動を行うにあたり、指導者や活動場所の確保が必要不可欠となりますので、地域の各種団体や学校と連携し、指導体制の充実を図ってまいります。

【スケジュール案】についてですが、来年度は小牧中学校と桃陵中学校をモデル校（単独校）とし、それぞれ単独での地域移行を行い、課題などを洗い出していきます。令和6年度にはこの2校に加え、小牧西中学校、篠岡中学校、光ヶ丘中学校の3校を連携校として加え、地域連携についても課題を洗い出し、令和7年度の全校実施に繋げていく予定です。

続いて、【地域部活動の運営主体】の案を説明いたします。

運営主体は小牧市とし、各中学校区に地域部活動運営委員会を組織します。運営委員は指導者や学校の管理職、PTAや学校開放運営委員等を考えています。

地域部活動の運営の中心は運営委員会となり、指導方針や活動内容の策定は運営委員会が行いますが、指導者や活動場所確保などの問題もありますので、学校、地域、各種団体等が連携して一体的な運営体制を構築していく必要があります。

また、顧問として責任をもって指導を行う人材を確保するために、適切な対価を支払うための予算の確保が必要となります。

続いて、【指導者】についてです。

中学校部活動の地域移行の一番の課題となるのが指導者の確保です。

資料4の1ページ目、2ページ目をご覧ください。現在、小牧市の中学校には、運動部、文化部を合わせると135の部活動があり、6月現在ではおよそ4000人の生徒が部活動に所属しています。続いて3ページ目、4ページ目をご覧ください。それに対し、教師以外の外部指導者は89名しかおらず、また、この方々も毎週必ず参加できるわけではありません。

対応策といたしましては、まずは現在外部指導者として活動してくださっている方々との連携、そして各種競技団体やスポーツ協会、文化財団をと連携して指導者を募集していきます。また、教師の中にも部活動指導を強く希望される方がおりますので、兼職兼業に係る運用ルールを整備していきます。

このように指導者の確保を目指していきますが、人数だけ集まればよいというものでもありません。専門性や資質を求めていくことはもちろんですが、安全面やメンタルケアなど、技術以外の面でのフォローも求められます。

指導者の資質向上を図るために、指導者スキルアップ研修の実施や部活動の教育的意義について学習する機会を設けていく予定です。

最後に、【その他の課題】について説明いたします。活動場所や用具の問題、部活動方針や大会参加、保険や会費、そして緊急対応と責任の所在など、ここにも様々な課題をあげさせていただいておりますが、これら以外にもまだまだ課題が出てくることが予想されます。こうした課題をきちんと洗い出し、見通しを立てていくことが大切になりますので、本日この会の中で、色々ご示唆いただけたらと思います。

これで説明を終わります。ありがとうございました。

委員長)

事務局から説明がありました。

まずはモデル校2校からスタートするという今後の方向性のほか、様々な課題も挙げられておりましたが、中学校部活動休日の地域移行につきましてご意見等をいただければと思います。

岩井委員)

現在は小学校にのみ「ジュニアクラブ」がありますが、20年ほど前に中学校においても部活動からジュニアクラブへの移行を行ったものの、数年で頓挫してしまったということがありました。

なぜ、中学校ではジュニアクラブがなくなってしまったかといいますと、一番は運営委員会という組織がしっかり機能していなかったことが原因としてあります。最終的には各学校長の判断ではありましたが、地域の指導者が熱心になるあまり行き過ぎた活動が行われ、それによって活動とは関係のない学校運営にまで支障をきたすということが起きまして、継続が困難となり、最後には全てのジュニアクラブがなくなるという結果となりました。

様々な課題がありますが、20年前に解決できなかったこの問題への対策は不可欠と考えます。休日部活動の地域移行を行うにあたり、指導者に対する最終的な人事権のほ

か、活動方針に対しても強い権限を持つ運営委員会が必要であると感じています。

委員長)

各中学校の地域部活動運営委員会をしっかりとしたものとしなくてはならないというのがまずひとつ課題として出てきております。その他の課題なども含め、ご意見はありますか。部活動の指導や保護者の立場なども含めてご意見があればお願いします。

合田委員)

スケジュール(案)についてイメージがあれば教えてください。令和5年度からモデル校、6年度から連携校での先行実施が始まるとのことですが、どのような流れで実施が進んでいくのか、もう少しお聞きしたいです。

大久保指導主事)

令和5年度からは、小牧中学校と桃陵中学校の2校でそれぞれ単独で実施していくということは先ほど説明いたしました。続く6年度からの複数連携校での実施についてですが、これは、例えば桃陵中学校にはソフトボール部がある、しかし篠岡中学校、光ヶ丘中学校にはソフトボール部がないといったときに、この2校のソフトボール部入部希望者が桃陵中学校のソフトボール部に参加できるようにする地域連携をスタートさせるものです。

しかしながら、4月からすぐ実施できるかということと大会等の関係もあり、難しい部分がありますので、いつからと明言することはできませんが、夏以降に新チームとなるからの実施ということも案としては考えております。

合田委員)

令和5年度からの単独校2校での実施段階では、今年度までと比較してどのような変化があるのでしょうか。

安部課長)

令和5年度の単独校2校での実施につきましては、平日の部活動は今まで通りの活動、休日の部活動を外部指導者の方に指導いただくという形となりますが、モデル校による実施をスタートさせて課題を洗い出し、検証しながら地域移行を進めていくという状況でありますので、具体的にどのタイミングでどのように変わっていくかということろまでは、現時点では申し上げることが難しいというのが現状です。順次、学校との調整を行いながら進めてまいります。

委員長)

令和5年度のモデル校での実施については、まず基本として休日の地域移行、つまり休日に外部指導者を入れていくという方向で進めていきたいということでした。他にご意見等がありますか。

岩井委員)

中体連(日本中学校体育連盟)のルールに関係になりますが、複数校で連携を行った場合、大会には出場できるのでしょうか。競技によっても異なりますが、例えばサッカーの場合、チーム成立には11人の選手が必要です。私が教員だった頃のことと言いますと、A校のサッカー部には3人しか部員がいない、B校には11人ぎりぎりの部員がいるという場合、2校合わせれば補欠も含めたチームが作れますが、B校だけで11人

いるため合同チームでの出場は不可であるという制限がありました。

たとえ連携を進めても、このような中体連自体の考え方が変わらなければ、結局大会には出場できない、練習だけの連携となってしまいますので、県の中体連のルールや全国的な考え方について、現時点ではどうなのか、そして今後の見通しとしてはどうなのかといったところが分かってきましたら、教えていただきたいと思います。

委員長)

坂下委員、中体連の件について把握している情報がありましたら、教えてください。

坂下委員)

今のところ、国の指針は出ておりますが、愛知県やその下の愛日地区の方針は示されておきませんので、こちらからも随時確認をとっていきたいと思います。なお、競技種目によってもレギュレーションの違いがありますので、一概に申し上げることが難しいといった側面はあるかと思えます。

委員長)

中体連からの情報、または他府県も含めて様々な情報が入りましたら、提示いただきたいと思います。その他、よろしいでしょうか。

和田委員)

地域連携の目指す形として、まずは土日の活動場所をつくることを主目的とするのか、または競技の技量向上や強化まで目指すものとするのかということを考える必要があるかと思えます。仮に後者の部分まで求めるとなると、複数校での連携や大会出場のことなどを見据えたときに、非常に多くのことを考えなくてはならなくなります。

また、休日の教員の働き方改革という観点からも学校部活動から地域部活動への移行は必要であり、これをいかにスムーズに行うかという点もありますが、やがては全9校で地域部活動を実施することを目指していくと、サッカーや吹奏楽などそれぞれの部活動によって数校ずつの拠点校を設け、参加したい生徒や指導者が決められた地区ごとに集まっていく拠点校方式を採用する方が、私としては事業を細く長く継続させられるのではないかと思います。

なお、過去にジュニアクラブへの移行を図った際、熱意を持った教員がジュニアクラブを立ち上げ、非常に力を入れて活動していたものの、やがて立ち上げ者が人事異動により学校を去り、後任者がとても同じようにはできず大変苦勞したというケースもありました。そのような過去の反省を踏まえましても、地域移行及び複数校連携の方法については、先ほど私の意見として挙げた拠点校方式、あるいは同じ部活動のあるどの学校間でも地域連携可能な方式などの検討を行っていくことは必要であるかと感じます。

委員長)

令和6年度から複数連携校での実施、そして7年度を目途に全中学校で休日部活動の地域移行を実施していくにあたり、拠点校を置く形とするのか、各校を同等の位置づけとするのかという部分も含め、この委員会でも話し合いを進めていくことになるかと思えます。

水野委員)

バドミントンや水泳など、現在、部活動自体を行っている学校が少ない競技において、

子どもが遠くの他校区の地域部活動に参加したいという希望がある場合、やはり親の協力が必須となるのでしょうか。例えば私のところは光ヶ丘中学校ですが、応時中学校の地域部活動でバドミントンをしたくなったときに、子ども一人を自転車で行かせて良いものなのか、それとも親の送迎が必須となるのか、どうなのでしょう。

委員長)

安全面を考えるとどうなるのかということですね。

水野委員)

事故等があるかもしれないという心配もあります。

小学校のときのクラブチームのように毎週、活動があるならば、ある程度のフォローアップについても考える必要があるのではないかと思います。

委員長)

事務局として、現段階での考えは何かありますか。

采女管理指導主事)

先ほど岩井委員や和田委員のご発言で挙がっていた課題、そして水野委員がおっしゃった「実施校が少ない部活動の子どもたちをどのようにフォローしていくか」という課題も含めまして、まずは「休日の部活動について、単独校を軸として地域へ移行していく、その過程において、次にどのような形で連携を行うことができるかということも含め、モデル校での実施の中で課題を集めながらベストな方法を考えていく」というのが現段階での方向性となります。

従いまして、休日をどこの学校の地域部活動に参加しても良いとするのか、あるいは地区を定めてその中の学校間に限定するのかといったことなどについても、保護者のお立場である水野委員を始め、委員の皆様にご意見を賜りながら、検討委員会において検討を深めていきたいと考えております。

委員長)

その他、よろしいでしょうか。

服部委員)

指導者はどのような方がいらっしゃるのかまだ分からないかもしれませんが、指導者の評価などを行っていく考えはありますか。

また、保護者や子どもたちが何か相談したいときの窓口はどちらになるのかということも教えてください。

藤田課長)

どのような形で指導者の質を確保していくのか、また相談体制をどのように構築するのかということであるかと思いますが、これらの点につきましても、今後の検討課題になるかと思えます。

中学校ごとに地域部活動運営委員会を組織していきますが、指導者もその運営委員会に属することになります。指導者には、希望する学校の先生になっていただく場合もあれば、地域から選出いただく場合もあります。そういった中で、指導者の質の確保については、マニュアルや指導の指針等を作成するなど、様々な形の対策を講じていく必要性があると感じております。また、ジュニアクラブ移行の際のお話もありましたが、そ

の反省を生かしたものにできればとも考えているところです。それらのことを踏まえまして、指導者の管理・監督体制の構築とその具体的な形につきましては、今後さらに議論していくことになるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

委員長)

過去の経緯も踏まえまして、指導者への評価というのは重要な点になってくるかと思っておりますので、各校の地域部活動運営委員会での検討になるのか、市として何らかの形をつくるのか、検討委員会でさらに話し合っていくことになるかと思っております。

岩井委員)

この件や先ほど和田委員が発言された件に関しては、やはり指導者の評価をしっかりと行う、強い権限のある運営委員会を組織しなくてはならないと感じています。

また、これも和田委員がおっしゃっていましたが、部活動の在り方として大きく分けて競技普及を主目的とするのか、それとも強化を目指すのか、基本的な考えをしっかりと決めなくてはなりません。競技全体の理想としては、もちろん強化も普及も大事ですが、私の意見としては、部活動は競技普及のためのもので良く、強化については競技団体の方で担っていただければ良いと思っております。今、部活動はその両方の目的を一緒に持ってしまっておりますが、本来、競技には「普及」そして「育成」があって「強化」という段階があり、部活動では普及から育成を、競技団体においては育成と強化を行うことが理想であると考えます。

現在、中体連の大会は、普及と強化の目的が一緒になったまま地区大会から全国中学校体育大会までありますが、この組織自体の考え方が変わらない限り、部活動において指導者が強化に走り過ぎてしまう問題の解決はありません。地域からの働きかけなどにより、中体連の組織自体を変えていくという必要性も感じます。強化を目指すのであれば、競技団体の方でそういうチームが参加する全国大会を設置すれば良く、能力のある子供たちはその能力をより伸ばし、指導者も強化を主眼に指導を行うことで何の問題もありません。しかし、普通の子供たちもスポーツを楽しみたい、ある程度の大会に出たいというのは当然ありますので、この受け皿になるのが本来の中体連の在り方ではないかと思っております。

地域移行を検討する上で最も重要なことは、過去の失敗を繰り返さないよう、強化に傾き過ぎることのない運営委員会を組織することであると考えます。

前原委員)

今の岩井委員のご意見に関してですが、専門的な知識を持って指導される方の多くが「結果を残したい」と考えると思っております。その思いとしては「指導する以上は、子供たちに大会でいい思いをさせてあげたい」ということなのですが、しかしこれは一方で、能力の高くない子供たちを切り捨ててしまうことにも繋がり、その結果、その子供たちは好きだったはずのその競技を嫌いになってしまいます。そのような結果を生まないため、指導者をコントロールする司令塔的役割を持つ運営委員会が必要であると思っております。

また、今もそうかもしれませんが、私が教育現場にいた頃、新体操や体操等、部活動にない競技をクラブチーム等で練習している生徒がその競技の中体連の大会に出るときには、それぞれ個々に通う中学校の代表として出場しておりました。大会出場に関し

ては、小牧市の部活動にない競技をしている生徒たちをどうしていくかということも考えなくてはならないと思います。

さらにもうひとつ、これは小学校の教員時代ですが、運動は得意ではないがみんなで遊ぶのは好きで、中でも特に釣りが好きという子がいました。そこで私は釣りサークルを作り、冬場のプールで活動できないかと提案したのですが、「夏にプールを使用するときに釣り針が残っていると危ない」ということで、残念ながらこれは却下となりました。

しかし、子どもたちが「こういうのをやりたい」と考えたときに、大変かもしれませんが、審議のうえ許容できそうであれば、活動を保証してあげられるような視点も必要ではないかと感じています。地域部活動に移行する検討を行う中で、運動部活動、文化部活動ともに、単純に「今ある部活動に限る」など、子どもたちの可能性を狭めるような発想はできる限り取り払ってほしいという願いがあります。

采女管理指導主事)

様々なご意見、ありがとうございます。

提案の中に挙げておりますように、まず「将来にわたり、小牧市の子どもたちが文化芸術やスポーツに継続して親しむことができる機会を確保する」ことが大切だと思います。教育振興基本計画の中にも、今後の小牧市の文化・スポーツの在り方及び学校教育の在り方について、ビジョンを掲げております。

今、学校教育の中で行っている学校部活動を地域に移行していくという非常に大きな流れが始まろうとしております。この大きな流れの中において、どのような方針のもと地域部活動を行っていくのかということについては、例えば競技の普及や子どもたちの育成、強化等どこに重心を置いていくのかということなどもさりながら、小牧市の将来にわたる文化・スポーツの在り方、今後の学校教育の目指す子どもたちの育み方といったところにも大きく関わっていくものとなります。

指導者の問題につきましては、指導者の量だけでなく質の確保もしていきたいというのが我々の考えであり、研修等により、単に技術的な指導に終始するのではなく、生徒の安全確保やメンタルケア等も求めながら、継続的に質及び量を担保していかなければならないと考えております。

当然、大きな課題がまだまだ山積しておりますが、このような方向性であるということで、委員の皆様には改めてご確認いただき、ではその中で、具体的にどのような道があり、どのようなことを推し進めていけば良いのか、そして新たな課題は何なのか、ということをご意見をいただければありがたいと考えております。

委員長)

事務局から提案されたことについて、どのような課題が考えられるかということをご様子からいただければ、今後検討していくこととなります。

和田委員)

運動部活動の場合、ジュニア育成活動との関係はどうなりますか。

委員長)

ジュニア育成活動は土曜日を中心に行われていますので、休日の地域部活動を検討する枠組みの中に取り込んでいくことになるのではないのでしょうか。

和田委員)

私もそう思います。ジュニア育成活動はもう何年も続いていますので、上手に活用すべきではないでしょうか。基本的には第2・第4土曜日、月2回の活動であったかと思いますが、まずは中学生がどのくらい参加しているかを調べた上で、ジュニア育成活動を活かしてそこから拡げていくという方法が効果的ではないかと思います。

なお、やがては文化部活動の地域移行についても取り組んでいかなければなりません。こちらの方がより困難な部分が多いかと思います。文化的活動における既存の事業としましては、夏休み等に文化協会の所属団体が小中学生の参加者を募集して講座を開催しており、多忙のためか中学生の参加者はなかなか少ないものの尺八や文芸短歌、日本舞踊等の講座に参加実績があります。ただやはり、指導者に年配の方が多く、ご本人の意欲は高いのですが、部活動のような継続的な活動の指導となるとなかなか難しいのではないかというところなど、多くの課題があるかと思います。

委員長)

既存の組織を活用していくというのは大変有効かと思います。また、文化的活動については、指導者の数が少ないという問題がありますので、指導者確保がとても重要になります。令和5年度からモデル校2校での実施がスタートしますが、この中でどのような取り組みができるかということが7年度に向けた鍵になるかと思いますので、小牧市として、いろいろな課題を解決していくことができるような方向性をしっかりと持っていきたいと思います。

福岡委員)

吹奏楽連盟の方でも、20年ほど前に吹奏楽のジュニアクラブ立ち上げを行い、市民館に全校から集まって活動しておりましたが、保護者の方の楽器運搬の負担や指導者の確保といったことなどに非常に苦労しまして、途中で止めになってしまいました。

吹奏楽には非常にお金がかかります。楽器も一度買えば終わりではなく、当時、市で予算をつけていただき各校で購入した楽器も、もはや使用不能になっており、現在では学校の予算で少しずつ買い足している状況です。

また、活動場所についても、楽器の保管の点から現実的には警備システムの働いている校舎の中しかなく、学校の職員がいなければ活動もできません。顧問が兼務で参加するとしても来られない時は当然ありますので、交代でなんとかやり繰りを考えても運営の難しさはどうしても出てきます。

吹奏楽連盟としては、このような予算の面と活動場所の面を最も気がかりに思っております。これらの点は、顧問の集まりでしかない吹奏楽連盟では力及ばないところですので、市のしっかりとした母体組織の必要性を強く感じます。

委員長)

他にご意見はありますか。

坂下委員)

今回、多くの課題が挙がりました。

広く課題について検討するために、調査、収集、研究する会を設けてはいかがでしょうか。

委員長)

ただ今、坂下委員から研究会を設けるという意見がありましたが、いかがでしょうか。

(意見・質問なし)

委員長)

それでは、研究会を設け、課題について調査、収集、研究し、この検討委員会に報告するということよろしいでしょうか。

委員)

異議なし。

委員長)

ご賛同いただきましたので、研究会を設けることといたします。

中学校部活動休日の地域移行について、多くの意見、課題を出していただき、ありがとうございました。本日の協議事項は以上となります。

4 その他

委員長)

それでは、4 その他 ということで、事務局お願いします。

山下係長)

次回、第2回の当委員会の開催についてご連絡申し上げます。

今回は、12月中旬に開催を予定しております。開催日が決定したところでご連絡申し上げますので、よろしくお願い申し上げます。

委員長)

もし、委員の皆様から今、何かご意見等ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

ご意見等もないようですので、事務局にお返しします。

山下係長)

委員の皆様、議事進行にご協力くださり、ありがとうございました。

それでは、これもちまして、第1回小牧市小中学校部活動検討委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

<終了>